R4.2.20
光家弘子

6ー話し方と三要素

位置づけ:

今までに教室では、それぞれ単独でやってきたが（ことば・心の傾向・先入観)、実生活では３つまとめて同時にそれも瞬時にやってくる。相手の**ことば**を聞いたその時に、どのような**心の傾向**が働き、それによってどんな**先入観**が作られるのかを考える。これらを今まで学んできた話し方の諸原則にあてはめて、分析してみる。

テキストには７つの項目が挙げられているが、講師はこれらのすべてを説明する必要はない。この中から２、３選んで説明すればよい。

その結果、感じのよい人や素晴らしいと思う人は、図表の諸原則（後ほど zoom 共有画面で提示）が守られていることに気づき、身につくように努力する。

＊諸原則→自分のなかで守らなければならない数々のもの

＊事例を通して、再確認する。それにより自分自身を振り返ることができ人間関係に役立つ

相互理解の３要素を理解することにより、人を見る目が変わる。(完璧な人はいない！）良いところもあれば悪いところもある。それを補い合って生きていくのが人である。

人を見る目が→温かくなる→人を許せる→人のことも分かるし自分のことも分かようになる　　『人は鏡、自分を写す』

青字はテキスト解説集より引用

話し方の諸原則と相互理解の三要素の関連

	ことば	心の傾向	先入観	諸原則
1)あいさつ				
2)態度				
3)肯定的な表現				
4)報告				
5)説得				
6)忠告				
7)スピーチの構成				